

ボリビア「ECO-TOMODACHI」の活動紹介

2018年11月 (VOL3)

JICA帰国研修員活動

環境教育どう促進する？

「日本では、子供が小学校から環境教育を受けているからごみを捨てない大人になる。」2017年に本邦研修に参加したクリシティアンは、研修期間で最も印象に残った出来事話を話してくれました。彼は、サカバ市でも子供たちが楽しく遊びながら学ぶことが出来る環境教育を促進するため「ヘレスポリー」を開発しました。「ヘレス」は、サカバ市清掃公社（GERES）の意味、「ポリー」は、世界的にポピュラーな「モノポリー」のゲームから取ったといいカラフルなボードを自慢気に見せくれました。ヘレスポリーは、2018年5月に完成し、ゴミの分別、リサイクル活動、コンポスト

生産などを行うことによりゴールを目指すボードゲームです。現在1,000部を作製し、サカバ市の学校に配布しています。現在、ボリビアでは様々な形で環境教育が実施されており、その多くが学校のコミュニティー社会開発プロジェクト（ローカルレベルの経済、社会開発を促進するための社会貢献コンポーネントを実践することが教育法で義務付けられています）の一環で行われています。ECO-TOMODACHIを通じ自然について学び、ごみの問題を解決するためのアプローチを様々なスケールから挑戦し、持続可能な生活習慣を導入するなど得られた学びを共有しながら環境教育の強化に挑んでいきたいと思えます。

写真：2018年5月27日、ロス・ティエンボス新聞から。



【どこに行ってもコンポストを作る研修員】

本邦研修に参加した2013年、オマル・テルセロスは、ビント市の技師でした。2018年、人口80万人の国内三大都市の内一つコチャバンバ市役所に転職。「中々分別回収が進みませんがミミズコンポストを始めました。自分で作った試験農園で大きなキャベツが出来ました。」と自慢げ。コチャバンバ清掃公社の責任者は、オマルの提案するコンポスト生産を応援してくれます。これから大都市においてもコンポスト生産に挑戦です。

技術協力の実施に於いて人事移動は技術の定着にマイナスな影響を与えますが経験豊かで頑張り屋の帰国研修員が他の自治体に移動することにより、彼らが持つ技術が地域レベルでの普及にもつながることプラスな物事の見方を教えてくれました。



EL GERENTE DE GERES, CRISTIAN GUTIÉRREZ, MUESTRA EL DISEÑO DEL JUEGO DE MESA. FOTOS: NÓE PORTUGAL

2018年7月2日にボリビアJICA事務所は、日経民間企業「Ikigai」とMOUを締結しました。同企業は、ソフトウェア開発を専門とし、日本が得意とするコンポスト生産技術の普及を促進する製品を帰国研修員と開発します。どんなものができるのでしょうか。次回の活動報告をお楽しみに！



【サカバ市にボランティアさんがきてくれました！】

笹尾 員統

(2018-1/環境教育)

私は現在、サカバ市ごみ処理公社（GERES）に配属され活動しています。私の主な活動は、3つあります。1つ目は、カウンターパートと一緒に学校を訪問し、環境教育をすることです。GERESの活動紹介（ごみ収集・ごみ処理・コンポスト等）、3Rや環境汚染等について環境教育を行っています。2つ目は、町の清掃です。清掃担当の方々と一緒に、市場・道・公園、時には生徒たちと学校周辺を清掃することもあります。地域住民からの要請で出動することもあり、町をきれいに保つことは、配属先の重要な活動の1つです。3つ目は、コンポストで作った堆肥を販売することです。主に市場で出た食べ物の残りや墓地の花をコンポストの肥料として、堆肥にしています。栄養がたくさん含まれていること、化学肥料を使わず自然のものだということを強調して販売しています。



【帰国研修員の声】



研修期間中に元ボリビアボランティアの皆さんに出会えました。

ドラ・クラロスさん

(「コンポストC」2018年)

現在、コチャバンバ県サカバ市の環境局長として活動をしています。生態学が専門であり、地域の自然環境の保護を重点として空気汚染、水資源汚染、廃棄処理に取り組んでいる一方、地域の生産性向上も私の業務の一部です。2018年8月～9月に「コンポスト事業運営（A）」の研修に参加しました。日本人は、優しく真面目です。時間を必ず守り、相手への気配りを大切にします。日本は、素晴らしい国です。一カ月の研修期間は、私のキャリアだけではなく私と家族の生活にプラスなインパクトを与えてくれまし

た。日本で学んだコンポストの生産技術を上手く現場で普及し人とごみの関係を変えたという気持ちからアクションプランを作成しました。同じ市役所の帰国研修員とタッグを組み活動を開始します。目指すは、15世帯を対象に家庭レベルで高倉方式のコンポスト生産を普及することです。サカバ市の住民の参加をプッシュするため高齢者グループと現地青年ボランティアグループをマッチングさせコンポスト生産と野菜の有機栽培のミニ・プロジェクトを始めました。コチャバンバ人女性ならではのリーダーシップで毎日活動に励んで行きたいと思っています。